

第62回流域委員会で県が説明に使用した資料（既存ダム活用）

1	村岡委員の意見書の要旨	1
2	予備放流と水源余力活用	2
3	県の検討方法	2
4	渇水時の被害（平成6年：新聞記事）	3
5	委員と県の検討方法の比較	5
6	近年の少雨化傾向による供給可能量の低下	6
7	現在の需要量でH6渇水が発生した場合の状況	6

村岡委員の意見書の要旨

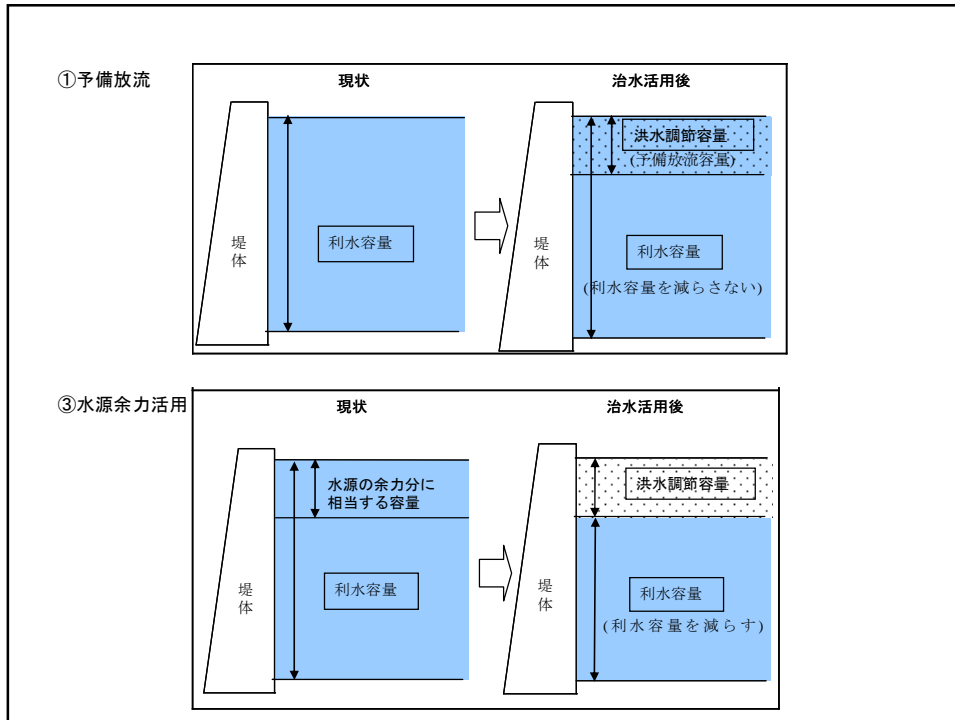
1 渇水を許容した予備放流の拡大

- ① 渇水を許容して予備放流を拡大する。
- ② このような予備放流の結果、渇水になると不都合なため、代替として新規水源を地下水等に求める。

2 水源余力の検討では、平成6年度渇水時の供給可能量は考慮する必要がない。

3 千苺貯水池の水質改善は進んでおらず、課題とされる「放流による水質悪化対策」は可能である。

予備放流と水源余力活用



県の検討方法

	需要量	供給可能量
県の考え方 ①水道計画上の検討	将来量 日最大取水量	近年少雨化傾向反映 1/10渇水

実際の需要は、1日最大取水量以下の量で変動。

(第57回流域委員会資料3 P36)

実際には、平成6年にこれを上回る渇水が発生。

(第57回流域委員会資料3 P36)

県の検討方法

	需要量	供給可能量
県の考え方 ①水道計画上の検討	将来量 日最大取水量	近年少雨化傾向反映 1/10湯水
追加 県の考え方 ②運用実態上の検討	将来量 日平均取水量	近年少雨化傾向反映 H6湯水

通常の水道事業計画上の水需給と、実際の水需給は異なることから、本検討では、通常の水道事業計画の考え方を使用する「水道計画上の検討」に併せて、**県独自の検討方法「運用実態上の検討」**を行い、より実態に近い水源余力を確認する。
(第57回流域委員会資料3 P36)

湯水時の被害（平成6年：新聞記事）



深刻な水不足が続く松山市で二十二日から、「十九時間断水」が始まり、ホームヘルパーやボランティアに頼る障害者や一人暮らしの高齢者が音を上げている、ヘルパーが訪れるのは断水時なので、洗濯や食事の準備が十分に頼めない。水が運べないので、トイレも流せない。障害者団体からは「弱者への方策を十分に立てて」との指摘も出始めた。

朝日新聞
(H6.8.23)

渇水時の被害（平成6年：新聞記事）

県立中央病院は・・・洗面所での節水などとともに、患者の入浴日を2日に1回に制限。・・・手術など必要な個所に水を優先的に回すため、トイレ用には・・・大型のポリバケツも既に用意した。高松病院では、「5時間給水ならやっつけられるが、それ以上に悪くなれば入院受け入れストップも」不安は徐々に大きくなり始めている。

四国新聞
(H6.7.11)

渇水時の被害（平成6年：新聞記事）

・大量の水を使う腎臓病患者の人工透析に影響が出てきた。透析液をつくったり、器具を洗浄したりする水が足りず、透析数を20%減らす病院が相次ぎ、透析時間の短縮を迫られる患者もいる。・・・透析時間が短縮されると、毒素が抜けにくく、心臓にも負担がかかる。

朝日新聞
(H6.9.27)

渇水時の被害（平成6年：新聞記事）

西日本新聞 平成6年10月10日(木)

潤い消えた!!

福岡市の12時間断水1ヵ月



30日で閉鎖したビアレストラン「海軍艦隊ライオン」

中洲地区 早帰りで低迷

福岡市千早地区で2月5日、5月、10月、11月、12月、1月、2月、3月、4月、5月、6月、7月、8月、9月、10月、11月、12月の断水が続き、市民生活に大きな影響を与えている。断水が長期化するにつれて、市民生活に大きな影響を与えている。断水が長期化するにつれて、市民生活に大きな影響を与えている。



断水が長期化するにつれて、市民生活に大きな影響を与えている。断水が長期化するにつれて、市民生活に大きな影響を与えている。断水が長期化するにつれて、市民生活に大きな影響を与えている。

大型ビアレストラン廃業

九州最大の歓楽街・中洲地区で30日、大型ビアレストランが閉店に追い込まれた。不況でお客が減っていたのに加え、給水制限による客離れのダブルパンチ。…(給水制限による)断水前にふろに入り、水をためようと早く切り上げる人が多い。

西日本新聞 (H6.10.1)

委員と県の検討方法の比較

	<p>需要量</p> 	<p>水源からの供給可能量</p> 
委員の考え方	現在量	近年の少雨化傾向が反映されていない 認可水量
県の考え方 (1水道計画上の検討) (2運用実態上の検討)	<p style="text-align: center;">↑ A ↓</p> <p style="text-align: center;">将来量</p>	<p style="text-align: center;">↓ B ↑</p> <p style="text-align: center;">近年の少雨化傾向を反映した供給可能量</p>

近年の少雨化傾向による 供給可能量の低下

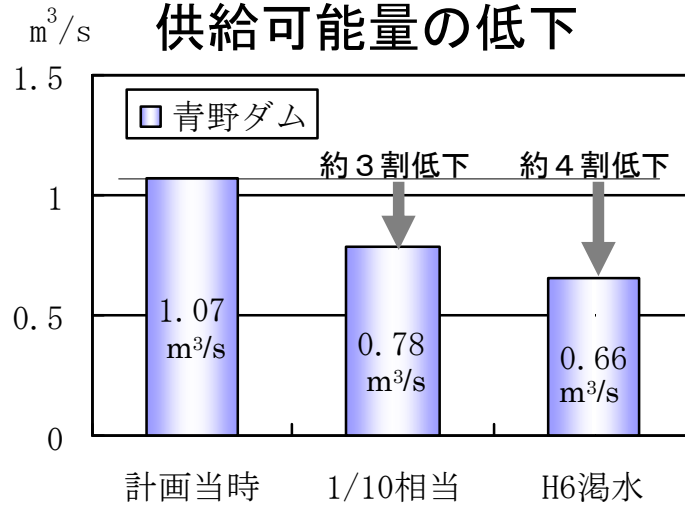


図7.2 青野ダムでの渇水リスクの増大

(第57回流域委員会 資料3 P60)

現在の需要量でH6渇水が発生した場合の状況

	需要量	供給可能量
県の考え方 ①水道計画上 の検討	将来量 日最大取水量	近年少雨化傾向反映 1/10渇水
県の考え方 ②運用実態上 の検討	将来量 日平均取水量	近年少雨化傾向反映 H6渇水
<参考> 現在の需要量 でH6渇水が 発生した場合 の状況	現在量 日平均取水量	近年少雨化傾向反映 H6渇水

現在の需要量でH6濁水が発生した場合の状況

単位：万m³/日

	水道計画上の検討 <small>(第57回委員会資料3P42.46.50に記載)</small>			運用実態上の検討 <small>(第57回委員会資料3P42.46.50に記載)</small>			<参考> 現在の需要量でH6濁水が発生した場合の状況		
	需要量	供給 可能量	余力水量	需要量	供給 可能量	余力水量	需要量	供給 可能量	余力水量
三田市	5.3	> 3.9	余力なし	4.4	> 2.9	余力なし	3.7	> 2.9	余力なし
篠山市	2.1	> 1.6	余力なし	1.7	> 1.4	余力なし	1.5	> 1.4	余力なし
三木市	0.7	> 0.5	余力なし	0.6	> 0.4	余力なし	0.6	> 0.4	余力なし
西脇市	2.0	= 2.0	余力なし	1.7	= 1.7	余力なし	1.5	< 1.7	余力わずか(0.2)
加東市	2.1	> 2.0	余力なし	1.7	> 1.6	余力なし	1.8	> 1.6	余力なし
小野市	2.6	> 2.3	余力なし	2.0	> 1.9	余力なし	2.0	> 1.9	余力なし
伊丹市	12.7	> 9.7	余力なし	10.0	> 8.1	余力なし	7.2	< 8.1	0.9
川西市	9.4	> 6.9	余力なし	7.0	> 4.4	余力なし	5.2	> 4.4	余力なし
宝塚市	12.1	> 11.1	余力なし	9.5	> 7.3	余力なし	7.3	= 7.3	余力なし
猪名川町	1.9	> 1.2	余力なし	1.5	> 0.8	余力なし	1.0	> 0.8	余力なし
尼崎市	23.6	< 26.8	3.2	20.0	< 24.2	4.2	20.0	< 24.2	4.2
芦屋市	5.9	> 4.4	余力なし	4.6	> 3.5	余力なし	3.4	< 3.5	余力わずか(0.1)
西宮市(南)	23.0	> 19.0	余力なし	15.3	< 17.0	1.7	14.9	< 17.0	2.1

は、余力水量があることを示している。